ルポ 仏ルーブル美術館ランス分館

炭鉱の町から文化の町へ

設計の妹島さん「新しい体験空間に」

世界的建築家、妹島和世さんと西沢立衛さんのユニット「SANAA」が設計したルーブル美術館分館が昨年末、仏北部ランス市に開館した。パリの本館で眠っていた所蔵品を生かす展示と、それを軽やかに包みこむ現代建築。美術館を中心に据えた地域振興策としても注目が集まる。【ランス永田晶子、パリ宮川裕章】

パリ北駅からTGV(高速鉄道)で約1時間。ベルギー国境に近いランス(Lens)は人口約3万6000人の小都市だ。炭鉱業で栄えたが、1960年代以降、閉山され過疎化が進んだ。

街は炭鉱労働者用の赤レンガ住宅が建ち並び、遠くに稜線が美しい二つの山が見える。炭鉱の遺物、ボタ山だ。昨年、この地を含むノールパドカレ地域圏の炭鉱地帯はユネスコの世界文化遺産に登録された。

ルーブル分館は炭鉱跡地を利用。120組を超す建築家が参加したコンペでSANAAが設計者に選ばれ、7年かけて完成させた。

その分館は緩やかな丘に沿い、五つの「箱」がつながって広がる。開放的なガラス張りの入場棟を中心に、常設展示室や企画展示室などだ。延べ床面積約3万平方㍍。全て地上1階建てで、収蔵庫などは地階に収めた。代表作の金沢21世紀美術館(金沢市)やロレックス・ラーニングセンター(スイス)と比べ、ごくシンプルな形態が印象的だ。

外壁はアルミパネルで覆われ、周囲の木々や建物をふんわりと映しこむ。この日は好天で、反射光が拡散して建物が空気に溶けこむような錯覚を見て覚えた。分館を訪れていた妹島さんは「大きな建物だが、威圧感がなく、周囲の環境になじむランドスケープ(風景)のような建築を目指した」と話した。

圧巻は「時のギャラリー」と名付けられた常設展示室。古代エジプトの彫刻、ルネサンスの絵画、イスラム帝国の陶磁器……。全長125㍍のワンルームに紀元前から近代まで、多彩な種類、地域の約250点が年代順に並ぶ。締めくくりは画家ドラクロワの代表作「民衆を導く自由の女神」。見学者は壁に刻まれた年代を見ながら、さまざまな文明を横断的に鑑賞できる仕組みだ。

こちらも壁面はアルミで、天井から自然光が差し込む。「元宮殿の本館に比べ、ローコストな建物。作品が魅力的に見えたり、新しい体験ができる空間にしなければ造る意味がないと考えた」と妹島さん。パリから訪れた30代のフランス人男性は「明るく爽やかな雰囲気。作品に集中でき、気持ちがいい」と話していた。

上シンプルな外観のルーブル分館 下ルーブル分館の「時のギャラリー」と、設計したSANAAの妹島和世さん=いずれも仏ランス市で、永田晶子撮影

文化施設の地方分散化政策

仏政府は2003年、パリへの文化施設集中を解消しようと、地方分散化政策を開始。ランスに先立つ10年5月には、地元自治体などと約7000万㌧を投じ、パリの国立美術文化施設「ポンピドーセンター」の分館を北東部メス市に開館した。同分館は日本人建築家の坂茂さんによる屋根が波打つような斬新なデザインも話題になり、2年間に100万人以上が訪れる観光名所となった。来訪者の約8割がフランス人だ。

ルーブル分館は初年度入場者数として70万人を目標に掲げており、ランス市第一助役のシルバン・ロベールさんは「ベルギーや英国から近い交通の便を生かし、海外からの観光客にも期待したい」と語る。オープン後、3週間で10万人が訪れるなど、出足は好調だ。

収支面ではメスは周辺の観光業界全体を含め、11年だけで初期投資額と同額の収入を上げたとする試算もあるが、公共施設整備に2億5000万㌧が費やされており、長期的収支の評価には時間がかかりそうだ。仏ソルボンヌ大のエディット・ファニョニ研究員(地理学)は「この種の文化事業は都市開発、観光業の発展と結び付けないと成功しない」と指摘する。

一方、ランスの総事業費は1億5000万㌧。ロベールさんは「炭鉱遺跡や豊かな自然、美食も楽しめる町として、日帰り客だけでなく宿泊客を呼び込みたい。建築のノーベル賞と言われる、プリツカー賞を受賞したSANAAの建築に注目する人も多い」と話す。

これら美術館の地方展開のモデルとなったのは、スペイン北東部ビルバオに1997年に開館した米グッゲンハイム美術館分館だ。建設地に造船所跡地を利用。芸術をテーマにした周辺地域の開発と併せ、鉄鋼や造船業から、観光都市への転換に成功した。ファニョニ研究員は「衰退した過去の主要産業と決別する都市政策の一例」と語る。

Interview 橋本清香

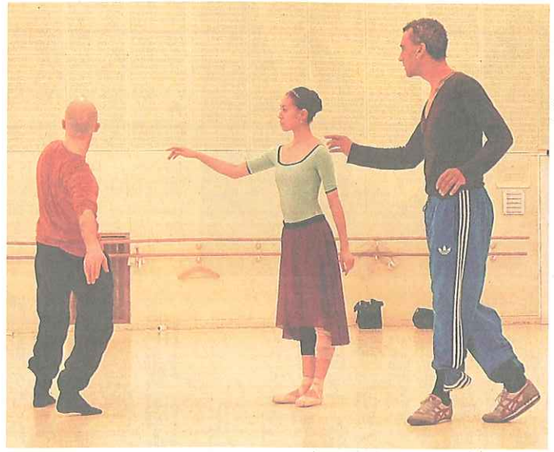
新作アポロで被害者役

ウィーンから「東京・春・音楽祭」に出演

ウィーン国立バレエで昨秋ソリストに昇進した橋本清香さんが、春らんまんの東京・上野で新作「アポロ」に出演する。バランシン振り付けの「ミューズを率いるアポロ」(1928年)へのオマージュで、同じストラヴィンスキーの曲が使われるが、今回登場する「アポロ」は殺人のぬれぎぬを着せられた死刑囚。「私は彼の無実を唯一知っている、被害者の役を演じます」。心理劇のような27分37秒を祖国で披露する日を前に、リハーサルに余念がない。

振り付けは、ベジャールの薫陶を受けたパトリック・ド・バナさん。原版に登場する太陽神と3人の美神を、死刑囚と彼を取り巻く3人の女(母、被害者、訪問者)に置き換える。アポロが不吉な予言者でもあることに想を得た。ステップの精密さと音楽性に定評のある橋本さんだが、「殺人事件の被害者で、霊とか魂のような存在ですから、とにかく難しい。与えられた動きを研ぎ澄まし、作品のテーマを伝えられたら」。

神戸市出身。小学3年で阪神大震災に遭遇した。「水泳、珠算などたくさんの習い事をしていましたが、自宅も教室も全壊。続けられたのは、バレエだけでした」。高校入学の直前、あるワークショップで、パリ・オペラ座の名花と呼ばれたモニク・ルディエールさんの目に留まる。「仏カンヌへの留学を勧められて即決」し、3年後に独ドレスデン国立歌劇場バレエに入団。さらに2008年のウィーンへの移籍も「オーディションを受けようと決めたのは、前日でした」。「いつも導かれるように進んできた」からこそ、今回「運命の女」役を任されたのかもしれない。



新作「アポロ」の振り付けを受ける橋本清香さん(中央)=橋本さん提供

橋本さんを重用するウィーンの芸術監督マニュエル・ルグリさんは、かつてルディエールさんとの名パートナーシップで知られた。新作「アポロ」にも「異なる言葉で紡がれる新しい物語」と、期待を寄せている。共演は、スペイン国立ダンスカンパニーの秋山珠子さんら。

今公演はストラヴィンスキー作曲「春の祭典」の初演から100年となるのを記念し、「東京・春・音楽祭」の一環として企画された。「ストラヴィンスキー・ザ・バレエ」と銘打ち、東京バレエ団によるベジャール版「春の祭典」が併演される。14日午後3時、東京・上野公園の東京文化会館。問い合わせは☎03・3296・0600へ。同祭では他に「東博(東京国立博物館)でバッハ」など、多彩なプログラムが組まれている。【斉藤希史子】

評 美術 黒田辰秋・田中信行—漆という力

際立つ

民芸運動の一

木漆工芸家の黒

904~82年)

で初の人間国宝

た重鎮。片や田

年生まれ)は、

造形を追求する

ティスト。不思

リングの本展は

る可能性とその

に伝える好企画

2人の共通点

どの加飾技法で

の「塗り」の美

た点である。し

は似て非なるも

黒田は、彫り

やらせんを生か

木工で確立した

のつやを生かし

蓋物や飾り手筐

の黒澤明が特注

の家具セット

本展では原点を

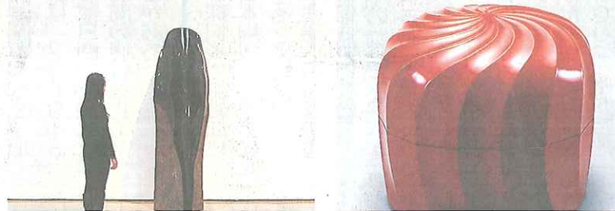
黒田が影響を受

具も併せて展示

を引用しながら

に転化させた

きる。



福島原発を観光地に

東浩紀さん

思想家の東浩紀さんや研

らがこのほど、「福島第1

観光地化計画」を発表した

故が収束しない状況での観

化計画には反発も予想さ

が、「第1原発の将来につ

の議論がタブーになること

も問題。あえて『観光』と

言葉を使うことで関心を集

議論を呼び起こしたい」と

さんは説明する。

観光地化は、事故から25

に当たる2036年の東京

福島第1原発跡地周辺を想

チェルノブイリでは事故か

年後の2011年に観光地